

依存問題PTT

5月7日
本部会議室
出席委員等9人・オブザーバー9人

「GL」の対応状況を報告

「自己申告」活性化委員会に提案へ

遊技産業活性化委員会の依存問題WGを兼ねているため、全日遊連、日電協、全商協、回胴遊商からオブザーバーが出席した。

自ら遊技料金の上限を設定する自己申告プログラムの概要が固まり報告された。当面、貯玉補償基金会員カードの所持者に限り、本人がプログラム申込書、本人希望の顔写真、顔写真付き身分証明書のコピーを提出して、1年間の有効とする。運用は、上限額を越えた当日は申請者への対応をせず、翌日以降の来店時に超過の旨を伝

える。ホールに掲示するポスター案も紹介された。この自己申告プログラムを6月の活性化委員会に提案し、了承を得てスタートすることになった。

依存(のめり込み)問題対応ガイドライン」の対応について、委員各社の報告が行われた。「全社的な勉強会をすでに実施し、担当リーダーを決めお客様対応を重視している」「部長クラスへのレクチャラーの段階」「役員会で重点的に取り組む決定」「4・17研修会に管理者を多数参加させ、下部へ浸透を図っている」などが報告され、

各社ごとの状況にかなり段差があるが、さらに状況を分析し、取り組みを強化することを確認した。

現場からの「足かせにならないか」「従業員への説得が難しい」など不安の声や「教育DVDがほしい」などの注文があった。それらを含め、次



依存対応などを協議した依存問題PTT

回会議までに安藤リーダーを中心に対策を検討することになった。

人材育成委員会

5月8日
本部会議室
出席委員等9人

社歴10年未満、営業関係で「女性の活躍」フォーラム具体案

「女性の活躍」を推進する人材育成フォーラムの具体案について協議した。例えばホールで働く女性の場合、キャリアを追求しても店長へのルートしかないという現状がある。また、その役職が女性に向いているかの検討も必要で、女

性独自のキャリアプランも必要ではないか。一方、女性が働く環境が整備されていないという問題もある。

それらの観点を考慮に入れて、対象者を社歴2〜10年未満、営業関係に絞り、1社1人の30人程度のフォーラムを構築することになった。自分たちが置かれた環境を共有し、キャリアプランを練るデイスカッションとともに、色彩検定、接客検定などの資格も取れるようなスキルアップを図っていく。

このフォーラムのプレゼンテーションのために、5月28日に開かれる遊技産業新経営者会議で、15分程度の時間を割いてもらえるよう要請することになった。

「合同説明会」について、現状の踏襲では限界が見えるとして、新たにリクルート主催の「すごい社人LIVE」に参加することが検討された。このLIVEは、学生に多様な仕事や働き方があることを気づいてもらうために、会場に500人程度を集め、参加企業が具体的な仕事、やりがい、エピソードなどを紹介する企画だ。6月に開かれる同LIVEを視察した上で参加するかどうか決定することになった。

遊技機委員会

5月19日
本部会議室
出席委員等16人

参加後に好感度アップ「フェスタ」で実施
2千人アンケート

警察庁が、ホール関係5団体に発した「遊技機の不正改造の絶無に向けた更なる取組について」と題する要請について説明があり、情報を共有した。これは、遊技産業健全化推進機構が警察庁の要請で立入検査の対象を従来の遊技機・計数器に加えて、くぎ曲げによる不正改造事案についても行うというもので、警察庁はそれにつ

いての理解と協力をホール関係5団体に要請していた。(2〜3ページに関連記事)

ニコニコ超会議2015(4月25、26日、幕張メッセ)に出席した日遊協ブース「パチンコ&パチスロフェスタ2015」の振り返りと入場者へのアンケート調査の結果が報告された。ブース入場者は2日間9147人で、当初目標の5000人を倍近く上回り、来年も出展する方向を確認した。

未経験者も遊技に興味

入場者へのアンケートでは2000人弱(男性84・3%、女性15・7%)が回答した。このうち未経験者・休止者(全体の20・6%)について、フェスタ参加前と参加後のイメージの変化について調べたところ、ポジティブイメージを5割が参加前から持っていたが、参加後は7割前後に増えた。一方、ネガティブイメージを持った未経験者は参加前に2割程度だったが、参加後は1割未満に減った。また、



「パチンコ&パチスロフェスタ2015」の振り返り等を行った遊技機委員会

遊技してみたい意向については、未経験者は参加前に66%だったが参加後は73・8%に、休止者は参加前に78・6%だったのが参加後84・2%にそれぞれ増えた。

6月11日の第26回日遊協通常総会で表彰される「遊技機アワード2015」の式次第等を確認した。パチンコ大賞・遊パチタイプ部門、同・ライトミドル・マックスタイプ部門、パチンコ特別賞、パチスロ・ノーマルタイプ部門、同ART・ART部門の5部門で各3機種が表彰される。

新規事業に予定されている遊技機番号管理方法の検討に関して、専門業者を呼び、業界共通基盤構築イメージの説明を聞いた。

広報調査委員会

5月13日
本部会議室
出席委員等10人

雑誌5社、WEB7社と「交流会」内容は更に検討へ

新規事業の「ファン雑誌・WEB交流会」について検討した。目的はメディアを通じてファンへの日遊協及び業界の発信力を強化すること、ファンと一番近いメディアとしてファン雑誌、WEBと

の関係づくりを行う。ファン雑誌関係は2010年ごろセキュリティ対策委員会に協力して「パチンコ攻略法詐欺撲滅キャンペーン」を展開したファン雑誌連絡会の中の5社、WEB関係は「パチンコ&パチスロフェスタ2015 inニコニコ超会議2015」(4月25、26日、千葉・幕張メッセ)の協力企業など7社を、当面の交流対象に予定している。交流会はファン雑誌、WEBで別々に半期に1回ずつ、計4回開き、7、8月ごろを目標に第1回を開くことを確認した。報告会形式が有力だが、伝える情報の内容、交流の手法等はまた検討が必要とされた。

ファンアンケート調査について、調査のスタート時期をこれまでの10月下旬から同月上旬に繰り上げること、調査請負会社をいったん白紙に戻して選定すること、都遊協青年部、九遊連青年部には例年通り事前の協力依頼を行うことなどを確認した。

遊技産業活性化委員会の遊技産業PRワーキンググループについて、広報調査委員会として有効なバックアップができないか、フリーターキングで意見を出し合った。

中部支部総会

山口悟支部長が3期目「スピード感を持って課題を」

日遊協中部支部は5月18日、名古屋市の名古屋ガーデンパレスで第25回支部総会を開き、山口悟支部長以下役員全員の再選を決めた。

山口支部長は「2020年の東京オリンピックという明るい話題もあるが、増税など予断を許さない社会状況にある。私たちの業界も遊技人口の減少、特に若年層の落ち込みがひどく、中部支部も例外ではない。依存問題、置引き、低射幸性の追求など課題も山積しているが、関係団体とも一致団結して、スピード感を持って、ビジネスモデルの確立にまい進したい」と冒頭のあいさつを行った。

来賓として警察庁中部管区警察局長広域調整第一課前川善英次席、愛知県警察本部生活安全全部保安課松木博志課長、中部遊商平井広義副理事長があいさつした。

庄司孝輝会長が東京で会議のため代わって本部から伊東慎吾常務理事があいさつし「業界に関する数字が下がり続けているのは遊技機のあり方とホールの環境に問題

があることを示している。高い射幸性への志向と複雑な遊技がお客様離れを起こしてきた。ホールも騒音、禁煙など課題をかかえている。この状況の中で日遊協は先頭を切って活性化プロジェクトを、また社会的責任としての依存対策に取り組んできた。パチンコ・パチスロフェスタや合同説明会など独自の活動で業界の中で将来を見すえた活動をしている。今後とも本部も支部も一体となって横断的組織の力量を発揮していきましょう」と呼びかけた。



再選され、総会議長を務める山口悟支部長

議案審議に入り、平成26年度活動報告と平成27年度活動計画を承認した。今季総会が改選期に当たるため、総会前の支部役員会で協議され山口悟支部長以下全員の留任を確認し、総会で承認された。

第2部としてセミナーが開かれ、愛知県警察本部生活安全全部保安課明石斎課長補佐が「遊技業界の健

全化について」と題し講話を行った。伊東慎吾常務理事が「依存問



篠原弘志専務理事の講演を聞く中部支部総会

中国・四国支部総会

「変化を恐れず前進を」松田副支部長代理あいさつ

日遊協中国・四国支部は5月11日、広島市のメルパルク広島で支部総会を開き、事業、収支に関する4議案を審議した。

後藤信行支部長が病氣入院中のため、代わって松田高志副支部長が「厳しい経営環境にある中、産業にたずさわる者として変化を恐れず、前進していきたい。会員の皆さまのますますのご協力をお願いしたい」とあいさつした。

篠原専務理事「現状維持は衰退」本部から篠原弘志専務理事があ

題、置引き対策」について解説し、篠原弘志専務理事が「業界の当面の諸問題について」講演した。

第3部の懇親パーティーで、駆けつけた庄司孝輝会長が「皆さんがひしひしと感じている厳しい状況の中で、活性化プロジェクト、依存対策など日遊協はリーダーシップを発揮している。支部の皆さんとともにがんばりたい」とあいさつし、内ヶ島隆寛副支部長の乾杯でスタートしたパーティーは関連団体のお客様と交流を深めた。

いさつに立ち「一般社団法人として日遊協は順調な活動経過をたどっている。日工組の団体加盟など日遊協の姿勢が評価されていると言っている。産業界にとつて厳しい情勢が続いているとき、現状維持は衰退となる。産業が前へ進むために、日遊協はその下支えをしていきたい」と日遊協のあり方を示した。

来賓として中国管区警察局長広域調整第一課の吉村正夫調査官があいさつし、のめり込み依存と置引

平成27年度(一社)日本遊技関連事業協
中国・四国支部懇親会



中国・四国支部総会の懇親会で挨拶する庄司孝輝会長



た。依存(のめり込み)問題ガイドライン、自己申告プロ

「遊技業の適正・健全営業について」と題して講話を行った。引き続きセミナーが開かれ、広島県警察本部生活安全全部生活安全総務課の三戸田伸幸課長補佐が

を終了した。伊東慎吾常務理事が本部活動報告を行い、総会

き事案の二つを取り上げ、さらなる取り組みを促した。続いて広島県警察本部生活安全全部生活安全総務課の斎藤康則課長があいさつした。
事業報告・方針を承認

グラム、置引き対策について茂木欣人風営法PTリーダーが解説し、篠原専務理事が「遊技業界をめぐる最近の動向」について講演を行った。セミナー後、場所を替えて懇親会が開かれ、東京での会議を終えて駆けつけた庄司孝輝会長が「2020年に2500万人のお客様

東北支部総会

「いい情報を社会へ発信」谷口久徳支部長 3期目スタート

日遊協東北支部は5月14日、仙台市のパレスへいあんで平成27年度総会を開き、谷口久徳支部長を再選した。

来賓としてあいさつに立った庄司孝輝会長は「日工組の団体加盟が6月の総会で決まり、日電協なども後に続いていく。新しい遊技機をどう提案していくかメーカーさんと一緒に考えていきたい。厳しい状況の中で、自らが変わる時期が来ており、どうやれば明確な展望を築けるか、産業としてのあるべき姿はなにか、皆さんとともに追求していきたい」と話した。
木村一雄元支部長を議長に選出して議案審議に入り、平成26年度活動報告、平成27年度活動計画を

獲得へ、それぞれの団体が目標をかかげて進んでいくことが肝心だ。やらねばならないことをやっていきましょう」とあいさつした。松原陽輔中国遊商理事長が乾杯の音頭をとり、支部会員は各県遊協はじめ他団体のお客様となごやかに交流を深めた。

承認した。

今総会は支部長の改選期に当たり、推薦により谷口久徳支部長の再選が満場の拍手で採択された。3期目を担当することになって谷口支部長は「昨年度は何百キロも離れた九州支部との合同会議、防災のための植林などさまざまな活動を行った。今年も十分に力を発揮したい。今年、日工組などの団体加盟は大事業で、内にこもった産業界を外に向かってアピールするきっかけとなる。新しいファン獲得、CSRも含め、生活に密着したいいい情報を展開したい」と意欲を語った。

会員勉強会とし



◀支部長3期目の決意を語る谷口久徳東北支部支部長



目代純平氏の講演を聞く東北支部総会

東北6県の県遊協幹部らの出席をいただいて懇親会が開かれ、井上静夫山形県遊協理事長が来賓のあいさつを行い、半沢通福島県遊連事務局長が乾杯の音頭をとって、にぎやかに交流がスタートした。

と題して講演し、篠原弘志専務理事が「遊技業界をめぐる最近の動向」について講演した。

て伊東慎吾常務理事が「日遊協活動について」報告し、茂木欣人風営法PTリーダーが「依存問題と置引き対策」について解説した。実務セミナーが開かれ、会員や他団体の方々が参加した。本誌連載の「スマートフォンの日々」執筆でおなじみの目代純平氏が「パチンコ・パチスロvsスマホゲーム(若者を虜にするゲームアプリ)」